

Transforming to make the world Romantic.



世界をロマンティックに変革する。

TOKYO MXにて放送されている『シゴト手帖』に弊社が出演しました(2月6日19:00-19:15放送)

時代を切り開くパワー溢れる人のフィーチャーする『シゴト手帖』は、その人物の素顔に迫り、シゴトで大切にしている言葉を書き留めるというコンセプトの番組です。

放送の中で私は、「世界をロマンティックに変革する」という企業理念に込める思いや、シゴトで大切にしている信念を話しておりますので、ご覧いただければと思います。

https://shigototecho.jp/backnumber/hatase_kyosuke/



20歳のときに今の生活を想像できたでしょうか。それどころか、3年前の自分すら今の生活を想像できなかったように思います。ということは、人はたった数年で想像を超えるような未来を実現しているということです。人生の夢と実現を再解釈し、より早く、より大きく実現するためのパートナーを目指して、今後も日々邁進致します。

代表取締役 畑瀬 匡甫

日本においても世界においても現在、COVID-19の影響を受け、財政政策として多くの融資が実施されています。そのような状況下において、实体经济とは乖離した金融市場の盛り上がりから、インフレリスクの上昇と、最高値を更新し続ける株価への上昇先行き不安などが懸念されているところかと思えます。そのような中で、米国にフォーカスすると、米国債の金利が上昇しています。債券の金利が上昇すると株式にとっては不利になってくると言われており、その理由としては、様々ありますが、代表的には「株式の益回りと債券の利回りの差が縮まると、株式の魅力が薄まること」「無リスクで得られるリターンが高まると、将来得られる利益の価値が下がるため」です。



そして、リスクフリーレート(実質リスクはゼロ)であると、国債の特に10年債の利回りはとみなされ、リスクを負わずに得られるリターンが高まる状況では、将来のリターンの価値は低下します。つまり、グロース株と呼ばれる将来得られるリターンを見越して買われている株は特に強く影響を受けます。

現在の米国市場では債券の利回りが上昇する傾向にあります。それに伴い株価もグロース株を中心に不安定になってきています。

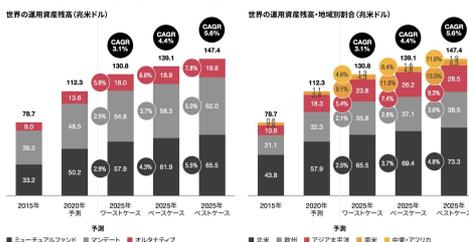
加えて機関投資家が指標としているS&P 500はコロナ以前より17%上昇している



のに対し、一年間で企業が稼ぐ予想利益であるEPSはコロナ前の\$170を更新していない。株価と予想利益の間にギャップがある状況で、今後の株式の動きがさらに難しい局面に差し掛かってきていると考えられます。また株高になると日本においてもGPIFなどのポートフォリオ設計の問題で、株式から債券比率をあげるようになってきます。ご自身で保有されている方々は今後注意してみてください。

執行役員 仲村 元希

図表1: 世界の運用資産残高とその地域別割合



出所: PwC AWM Research Centerによる予測。(注)四捨五入の誤差上、合計が一致しない場合があります。

株式会社 **HATASE HOLDINGS**

<https://www.hataseholdings.jp/>